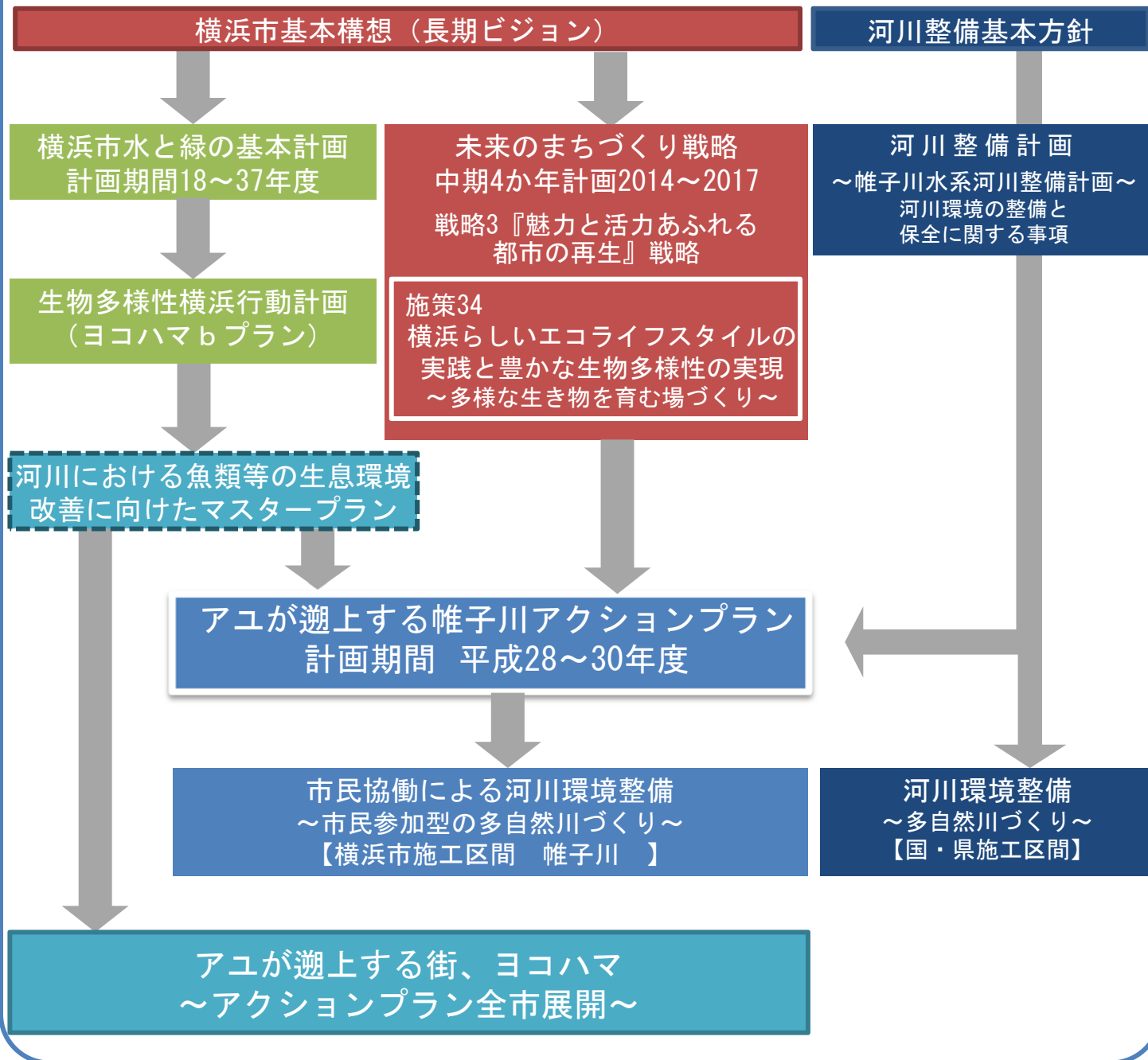


# アユが遡上する帷子川アクションプランについて

## ■ アクションプランの位置付け



- 中期4か年計画2014～2017の「未来のまちづくり戦略」において、誰もが住みたい、住み続けたいと思える暮らしやすく魅力あるまちづくりを推進するため、「アユが遡上する街、ヨコハマ」に取り組んでいます。
- 現在は、帷子川をモデルケースとして進め、将来は全市に展開していく予定です。
- 帷子川における現況課題や目標を定めた「アユが遡上する帷子川アクションプラン」を策定 (H27. 12. 24) しましたので報告します。

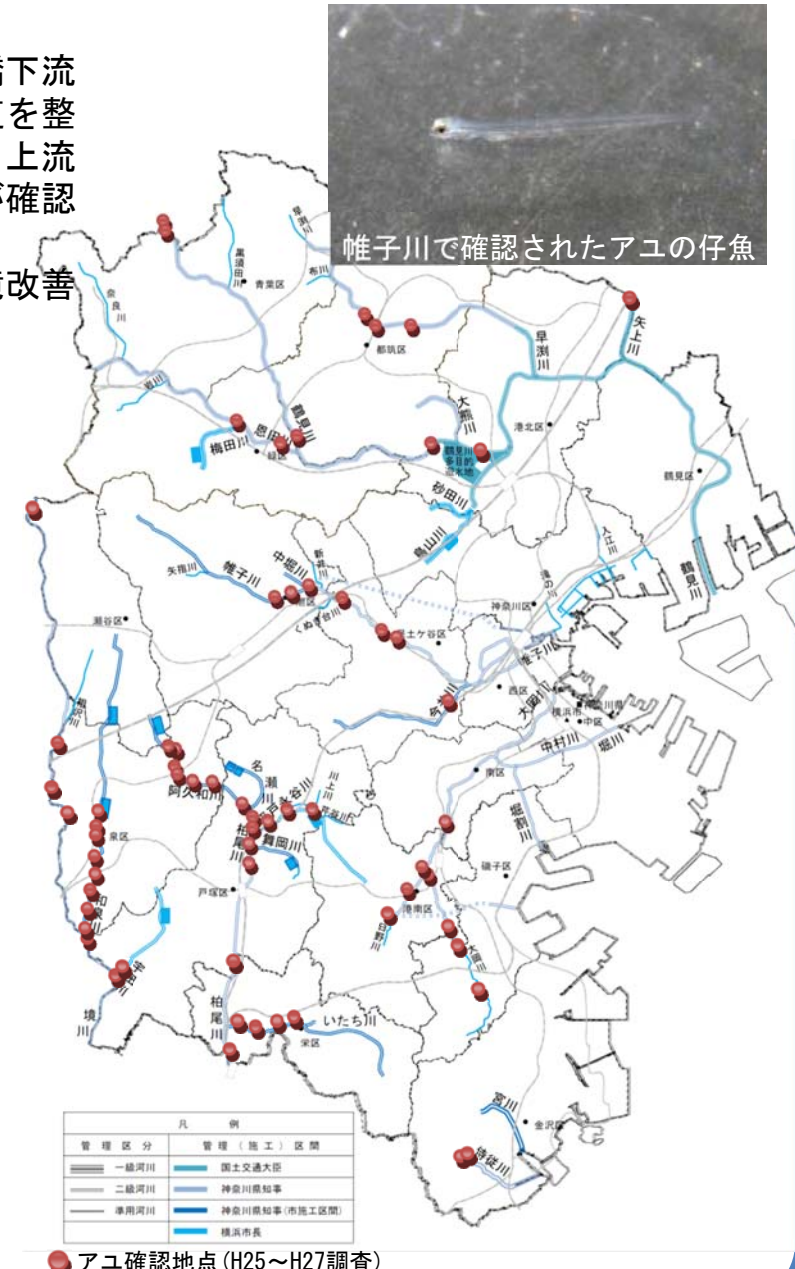
## ■ アユが遡上する街、ヨコハマ

横浜のアユは、昭和40年代に姿を消したといわれています。その後、河川の水質改善が進むとともに、平成元年に再確認されて以降、現在では市内の多くの河川で確認されるようになりました。

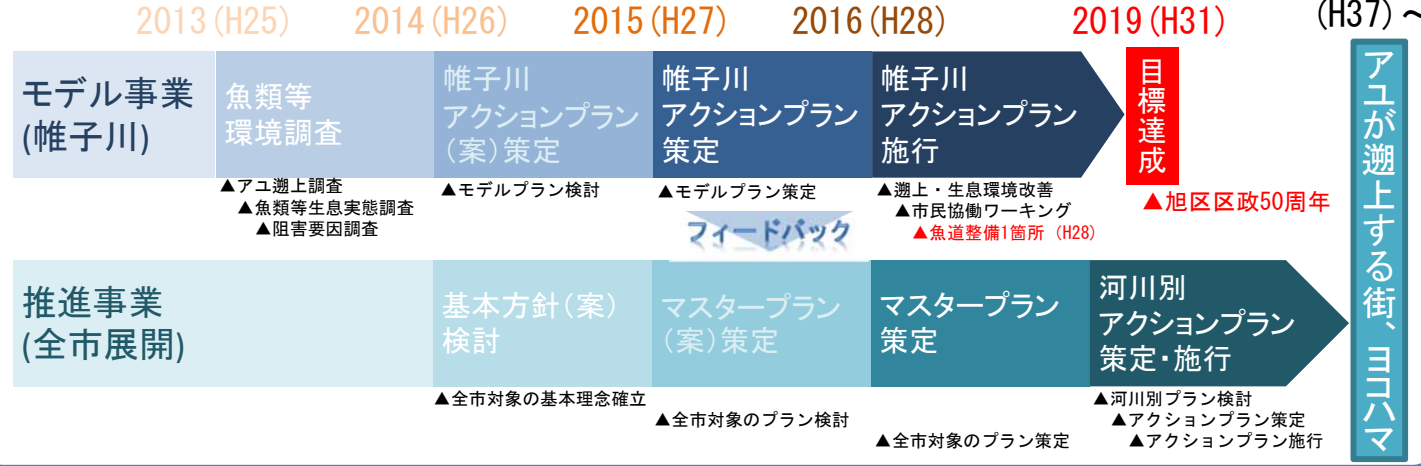
平成19年には、帷子川でアユの仔魚が確認され、翌20年には市内の多くの河川でも確認されるなど、横浜市内の河川で、アユの産卵、ふ化が定着してきていることがわかりました。

平成21～23年度に帷子川用賀下橋下流部及び中堀川合流部の落差部に魚道を整備し、平成23年度の魚類調査により上流の鶴峰橋下流の落差工付近でアユが確認されています。

魚道の整備による魚類の移動環境改善に、一定の効果が確認できました。



## ■ アユが遡上する街、ヨコハマ スケジュール



## ■ 現況課題と計画目標



## ■ 改善方針

- ・アユを含む回遊魚等の生活史を健全に循環させるため、阻害要因を改善します。
- ・アユを含む生息魚類等の生息環境を確保するため、環境要因を改善します。
- ・帷子川の現状を踏まえ現実的な対策により、効果の高い改善を実施します。



## 生息環境の課題



用地橋付近の河道平瀬と早瀬が形成されているが、水際が直線的で、出水時の待避場所がない。



公園橋下流 流路が単調で、瀬淵がなく、出水時の退避場所、鳥類等の外敵から身を隠す水際植生等がない。



今川親水橋上流 流路が単調で、瀬淵がなく、出水時の退避場所、鳥類等の外敵から身を隠す水際植生等がない。

## 移動環境の課題



③鶴峰橋下流落差工 (H28予定)



⑦公園橋上流落差工



⑥公園橋下流落差工



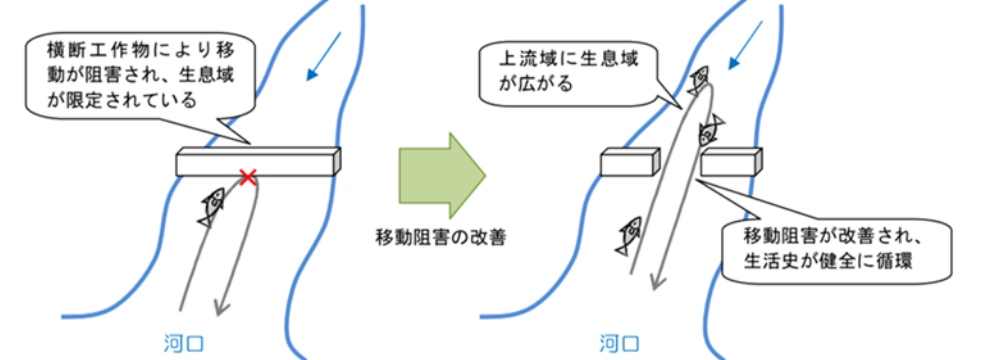
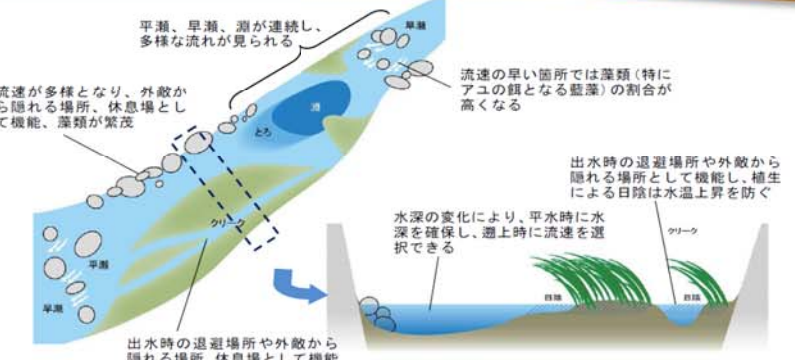
⑤今川橋下流落差工 (H30予定)



④鶴峰橋上流落差工 (H29予定)

- ★: 過去の調査によるアユ確認地点
- : 横断工作物(魚類の遡上困難)
- ▲: 横断工作物(条件により遡上可能)
- ◆: 横断工作物(魚類の遡上可能)
- : 生息環境の課題箇所

## ■ 具体的な対策イメージ



## 生息環境の改善事例



多様な水環境整備(水際植生の整備) 阿久和川 (横浜市戸塚区)



多様な流れの創造(巨石の配置) いたち川 (横浜市栄区)



出水時の待避場所(ワンドの整備) いたち川 (横浜市栄区)

## 移動阻害の改善事例



横断施設の一部切り欠き 黒須田川 (横浜市青葉区)



水路式魚道の整備 帷子川 (横浜市旭区)



粗石付き双斜曲面式全断面魚道の整備 いたち川 (横浜市栄区)